

# 報道された広大

## 六月

- #ゲームっ子、意外に読書家 テレビっ子より成績もよい?—広島大学の森樫教授が報告(朝日、6・21)
- #広島大学生・院生の自殺急増 昨年から9人、相談委を設置(中国、6・24)
- #広島大学地域共同研究センターが震災テーマにフォーラム(日経、6・24)
- #単車の広大生死亡(読売、6・26)
- #県・広大が研究施設 広島中央サイエンスパーク民間の技術向上支援(日経、6・27)
- #タイの飲み友達—広島大学教授山下彰一氏(日経、6・27)
- #新校舎建設へ 広大法・経済学部夜間主コース(中国、6・28)
- #広島大が「Vラボ」理工系学生学部超え大学院教育(日経、6・28)
- #最先端技術開発へ 放射光広島大が研究施設(中国、産経、6・28)
- #暮らしの中の「化学」学ぼう 広島大学工学部11日から公開講座(中国東広島版、6・29)
- #南方留学生8・6に集う 広島で同窓会(中国、6・30)

## 七月

- #岩場から落下重体具、訓練中の広大生(朝日、7・2)
- #原爆文献被爆国の遺産 広大国際放射線情報センターの宇吹暁さん、歴史事実あぶり出す(中国、7・2)
- #緑地帯 学校へ行こう⑥「コウイチ」—越智貢広島大学文学部助教授(中国、7・3)
- #緑地帯 学校へ行こう⑦「黒田節」—越智貢広島大学文学部助教授(中国、7・4)
- #新生児の先天性異常が「チェルノブイリ原発事故」後二・二倍—ベラルーシの研究所と広島大が共同調査(毎日、7・5)
- #フリータイムこの人と—広島大学助教授水島朝穂さん
- #中国地方5大学12競技で熱戦(読売、7・8)

- #留学生乗せ走れ放置自転車 広島市内の76台、広島大で貸し出し(中国、7・11)
- #社会を変える認識育てよう 女性と開発と教育、広島大学で公開シンポ(中国、7・11)
- #「原爆症」の本世界に送ろう、実態理解 医者に—横路広島大名誉教授ら(日経、毎日、7・11)

- #無縁に乗せて新キャンパスPR—広島大の愛好団体が移転記念賞を作成(中国、7・11)
- #女性と開発と教育—広島大学で公開シンポ(中国、7・11)
- #オオタカのヒナ、南限の繁殖地の東広島で確認(朝日、7・11、7・12)
- #創立50周年でシンポと講演 22日に広大医学部(中国、7・13)
- #訓練・食事手助け 東広島島の身障者リハビリセンター 広大医学部36人(中国東広島版、7・13)
- #小学校教員の養成法など論議 あすから広島大でユネスコセミナー(中国、7・16)
- #中国論壇—医師の人間性修養に力、医学部の変革を目指して—広島大医学部長 調枝寛治(中国、7・17)
- #高校生を対象に公開ガイダンス あすから広島大(読売、7・23)
- #放射光研究の実験棟整備へ 広西条キャンパス(朝日、7・24)
- #夜の境内に美しい歌声 主婦と広大生合同合唱公演、立ち見も出る盛況(中国、7・25)
- #広大の概算要求まとまる(中国、7・26)
- #放射線の影響テーマ テレビ講座受講生募る(中国、7・28)
- #被爆・復興：50年の思いつづる 旧制広島高同窓生回想集を出版(中国、7・29)
- #旧ソ連核実験場の周辺住民の死亡率は被爆の広島並み—広島大原爆研究所が発表(毎日、7・29)
- #内海で広島大生水死(読売、7・30)
- #「信仰ばかりでなく知識も大切」—河野真安田女子大学長(広島大学名誉教授)が講演(中国、8・1)

- #平和願ひ同窓生が冊子 戦争で犠牲の学友しのぶ、旧制広島高(読売、8・1)
- #潜水におぼれれ広大研究生重体読売、8・2)
- #被爆直後の写真半世紀ぶり発見 広島工専周辺の惨状鮮明、当時の教官保存(中国、8・3)
- #でるた—西条は中国地方の軽井沢—相原和邦 広島大学教授(中国、8・4)
- #原爆医療と大学紛争克明に 広大医学部が「50年史」発刊(中国、8・4)
- #問われる被爆体験の風化 広島大旧理学部1号館保存問題で(読売、8・4)
- #元南方留学生8人広島入り、あす寮跡で同窓会(中国、8・5)
- #広島で被爆、帰国途中死亡南方留学生しのび反核ビデオを製作(中国、8・5)
- #「この世の地獄だった」元南方留学生が講演(中国、8・6)

- #被爆の南方特別留学生ら50年ぶり広島で再会(朝日、8・6)
- #興南寮跡で思い出語る 元南方留学生9人(中国、8・7)
- #除菌治療広がる兆し 潰瘍招く細菌「H・ピロリ」抗生物質併用8割効果、広島大病院(中国、8・7)
- #広島大「ペスタロッツチ教育賞」の候補者募集(中国、8・9)
- #統合移転記念し懸賞論文を募集 広大経済学部(産経、8・9)
- #森戸道路に屋台ずらり 26日広大で千田祭(中国、8・10)
- #光ファイバーLSIに合体、情報伝達10倍の速さ 広大グループ開発(読売、日経、8・11)
- #広島青年会議所が東千田キャンパスでトロップコレース(日経、8・12)

## 編集後記

◆夏はいのちの季節だ。毎夏、いつも二つの場面「いのち」のことを考える。  
祭りの日、肩に食い入る御輿の重さや踊りの熱狂が、ふだん実感することのない熱いいのちを覚えてくれる。私はいのちだ。そんな叫びが身体の奥底から湧き上がる。  
ヒロシマ、ナガサキ。終戦のそれぞれの日に感じるいのち、それはまるで違っている。重い透明ないのち。頭を垂れざるをえなくさせる悲しいいのち。このいのちに祈りを捧げるとき、世界中が平和であってほしいと心底願わずにはいられない。

◆今号の特集の一つである「いじめ」も、いのちの問題に深く関わっている。一度しかないいのち、喜びの源であるいのちを粗末にさせるもの。それを見極め克服しなければならぬと思う。  
◆最近、投稿が増えてきた。広報委員会としてはとても嬉しい。これまで折に触れ掲げてきた投稿規定に照らして掲載の可否を決めるが、その判断は必ずしも容易ではない。委員の間で意見が異なる場合もある。

◆今号に寄せられたものの中にも掲載できない投稿があった。今後規定を見直して、できれば次号に、より明快な規定を掲げるつもりだ。  
ただ、「フォーラム」が教員・職員・学生それぞれの「広場」という点は大事にしていきたい。少しでも「フォーラム」をよくし、広島大学をよくする広場。そしてそのための方向を模索し吟味しあえる広場でありたい。  
そんな広場を維持してゆくためには、相互理解と相互批判が欠かせない。それらなしには健全な対話が成り立たないからだ。対話の広場にふさわしい議論や投稿を期待している。  
◆学生時代、実はジャーナリストにあこがれた。いま記事を書いたり割り付けをしたりと、少しだけ編集の楽しい感触を味わいながら、他方で、その難しさを痛感している。  
編集の営みは、「自由」とは何か、「文化」とは何かといった問題といつも背中合わせになっている。しかも、ここでは観念的な答は許されない。わたしたち大学人がもっとも苦手とする領分だろう。この問題とどこまでつきあっているのか。そんなことを考えながら、では、次号までしばしサヨナラ。(第27期広報委員会委員長 越智貢)